

## 今日のトピック 70ドル台に乗せた原油価格（2018年5月） 需給バランスが改善、地政学リスクがあと押し

### ポイント1 上昇する原油価格

#### 1バレル当たり70ドル近傍で推移

- 原油価格はWTIで見て、2018年2月初旬の1バレル当たり59ドル台を当面の底に、5月7日の同70.7ドルまで上昇しました。その後も、概ね70ドルを上回った水準で推移しています。

### ポイント2 好転する世界の原油需給 景気拡大と協調減産が寄与

- 原油価格が再び上昇基調に転換したのは、需給の改善によるところが大きいと考えられます。
- 石油輸出国機構（OPEC）によると、17年は原油需要が世界全体で日量9,720万バレル、前年比1.7%増となる一方、供給はOPECおよび非OPEC産油国による協調減産が功を奏して同9,657万バレル、同0.8%増にとどまりました。この結果、需給バランスは、需要超過に転換したもようです。
- 続く18年の世界の原油需要は日量9,885万バレル、前年比1.7%増が見込まれています。非OPEC諸国の予想生産量が同6,611万バレルですから、OPECの生産量が18年1～3月期実績の同3,209万バレル程度を維持すれば、18年の原油需給は引き締まる見通しです。

### 今後の展開 原油価格は現状程度の水準で高止まりしよう

- 中東地域での地政学リスクの高まりも、原油価格の上昇につながっています。5月8日にはトランプ米大統領が、イラン核合意からの離脱、核合意に基づいて解除していたイランに対する経済制裁の再開を表明しました。90日～180日の猶予期間を経て、対イラン経済制裁が発動されると、日量100万バレル程度の原油供給減に陥る公算があります。

【原油価格と北米の rigs稼働基数】



(注) データは原油価格が2014年1月3日～2018年5月15日（週次）。  
Rigs稼働基数が2014年1月3日～2018年5月11日（週次）。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【世界の原油需給見通し】

	2016年	2017年	2018年
<b>世界需要</b>	<b>95.5</b>	<b>97.2</b>	<b>98.9</b>
<b>供給</b>	<b>95.8</b>	<b>96.6</b>	<b>98.9</b>
非OPEC	63.2	64.2	66.1
OPEC	32.6	32.4	32.7
<b>需給バランス</b>	<b>0.3</b>	<b>▲ 0.6</b>	<b>0.0</b>

(注1) 需給バランス=供給-需要。▲は需要超過。  
(注2) 単位は百万バレル（日量）。  
(注3) 2017年は実績見込み、2018年はOPECによる予想。但し、2018年のOPEC生産量は、全体の需給が一致するとの仮定のもとでの弊社算出値。  
(注4) 四捨五入の関係で、OPEC、非OPEC供給量の合計は必ずしも全体の供給量と一致しません。  
(出所) 「OPEC月報」のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

- ただし、日量100万バレル程度の落ち込みであれば、他の産油国の増産で吸収可能と考えられます。しかも、今回は欧州連合（EU）が、対イラン制裁に加わらない見通しです。これらを踏まえると、原油価格が急騰することはないと、当面、現状の水準近傍で高止まると予想されます。

**ここもチェック!** 2018年5月10日 吉川レポート（2018年5月）世界経済の見通しと米中摩擦  
2018年4月18日 堅調に推移する原油価格（2018年4月）需給バランスの改善が追い風

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。